

# しかおい 議会だより

第157号

議長・広報部会長 新年あいさつ ②

12月定例議会 ②

11/22 議員とカフェでひとこと ④

一般質問 2委員会・4人の議員が問う ⑤

総務文教常任委 道内視察報告 ⑨

ぎかいトピックス ⑫



小中高大生による迫力の演奏

撮影者 清水 浩徳

令和4年12月11日、第18回2022ウインターコンサートが町民ホールで開催され、全8曲が演奏されました。

■2023（令和5）年1月25日発行

【E-mail】[gikai@town.shikaoi.lg.jp](mailto:gikai@town.shikaoi.lg.jp)

【URL】<https://www.town.shikaoi.lg.jp/>

■発行者 北海道鹿追町議会

2023年1月

これに伴い、各会計の総額で917万円を増額補正した。

**○職員等の定年等に関する条例**  
国家公務員の定年引き上げに伴い、令和5年度から令和13年度にかけて、職員の定年を現行の60歳から65歳へ段階的に引き上げる。



トリムセンター  
令和5年度から入浴料を値上げ



役場庁舎内の小荷物専用昇降機の場所にエレベーター設置を検討

**○帯広厚生病院運営費補助金**  
救急救命等の不採算事業における赤字分について、十勝管



町立病院  
R4.11～12は発熱外来患者が増加



瓜幕バイオガスの発電機 発電時の余熱で水耕栽培ハウスでトマト等を栽培

**○議会議員報酬及び費用弁償等に関する条例**  
**○特別職の職員の給与に関する条例**  
**○職員等の給与に関する条例**  
**○会計年度任用職員の給与及び費用弁償に関する条例**

令和4年人事院勧告に基づき、民間との給与格差を是正するため、国家公務員に準じ、職員の初任給及び若年層の給料月額と、議員と特別職は期末手当、職員は勤勉手当の0・1カ月分を引き上げた。

なお、会計年度任用職員の期末手当は令和5年度から引き上げる。

また、60歳で管理職から非管理職へ異動する役職定年制や、定年引き上げ後に定年年齢到達前に常勤職員を退職した場合は短時間の職に再任用する定年前再任用短時間勤務制度も、合わせて導入する。

**○トリムセンター設置条例**  
**(公衆浴場入浴料)**  
北海道の公衆浴場入浴料上限額が令和4年10月1日改定されたことに伴い、トリムセンターの入浴料も改定する。

おとな(12歳以上)は、現行450円が480円(一部の高齢者の町民は220円が240円)となる。

令和5年4月1日から改定する。

**(一般会計)**  
**○生活困窮者等事業委託料**  
950万円

生活困窮者への支援体制を構築するため、相談窓口の開設等、継続的な相談支援や地域連携等を通じて、経済的・社会的自立を促進し、困窮状態からの早期脱却を目指す。

この事業は、鹿追町社会福祉協議会へ委託して実施する。

**○役場庁舎エレベーター整備実施設計業務委託料** 539万円

役場庁舎内エレベーター整備実施設計を行い、設置を検討する。

**○光熱水費** 1904万円

電気料金の高騰により、各公施設で使用する電気料金を増額した。

**○燃料費** 1324万円

燃油高騰により、公共施設の暖房用灯油・重油、公用車で使用する軽油・ガソリンにかかる燃料費を増額した。

**○町立病院運営費補助金** 149万円

町立病院運営に係る赤字分について追加補助する。

令和4年度の補助金総額は2億6048万円となる。

内市町村で補助する。補助総額は上限の3億円で、このうち30%、9千万円を十勝管内町村で補助する。

補助金のうち80%、259万円は、国から特別交付税措置される。

**○認定こども園電子オルガン購入費** 117万円

老朽化した電子オルガンを更新する。計4台購入する。

**○バイオガスプラント事業委託料** 5800万円

瓜幕バイオガスプラント内に4基ある発電機のメンテナンス、原料槽の清掃及びトラクター修理等を実施する。

事業は瓜幕バイオガス利用組合に委託して実施する。

議決事項  
条例改正

主な補正予算

新年のごあいさつ



鹿追町議会議員 吉田 みのる 稔

明けましておめでとうございます。  
令和5年が幕開けし、新たな気持ちで新春をお迎えのことと拝察申し上げます。  
さて、未だ収束されないコロナ禍やロシアによるウクライナ侵攻、そして物価高騰等、社会全体の課題が山積する大変憂慮される状況が続いておりますが、一つ一つ解決に向け前進していく必要があります。  
私たち議会も町と連携し、皆さま方が安心して生活できるよう、全力で対応し

ていきたいと考えます。  
今年4月には、統一地方選挙となり、本町議会議員選挙も執行される予定であります。  
町政に興味があり、まちづくりを行なっていきたいという志のある方は是非とも議員を目指していただき、町政に参画をいただければと思います。  
結びに町民皆さまにおかれましては、健康で素晴らしい年になりますことをご祈念申し上げ年頭のご挨拶といたします。



この3年間は、コロナ禍で議会活動が思うようにできませんでした。  
そんな中でも、議会広報活動は皆さまに支えられ、年4回の議会だよりとミニ広報は無事に発行でき、感謝・感謝です。  
議会広報は、町民と議会をつなぐ重要

な媒体です。これからもぜひ手に取って見てください。  
元気なまちづくりは若い力が必要です。がんばりましょう。



広報部会長 さい だいじ 一 蔵 征



12月定例議会が令和4年12月7日から13日まで7日間開催された(写真は13日の総務文教常任委員会代表質問)

**生活困窮者の就労準備支援 相談窓口設置等の予算を可決**

12月定例議会が令和4年12月7日から13日までの7日間で開催された。条例改正6件、補正予算7件、請願1件、意見書1件を原案どおり可決した。  
一般会計の予算額は、3億7542万円を増額補正し、78億6098万円とした。



■ 値上げラッシュに負けず、お買い物をして 経済を回していきましょう！

請願・意見書

主な質疑

全額、環境保全センター基金を活用する。

町営牧場指定管理委託料 2645万円

町営牧場での夏季入牧の牛舎での飼養頭数が当初見込みの3・9万頭から4万頭余り増頭し8万頭になった。

委託料の不足分を増額し、当初予算との総額は3億4705万円となった。

地方バス路線維持対策補助金 2143万円

北海道拓殖バス株式会社が行う、鹿追町内を經由し帯広駅前行きバス路線維持のため、沿線5市町(帯広市・音更町・鹿追町・清水町・新得町)で案分し補助する。

補助金の一部は国の補助金を活用する。

【簡易水道会計】

○光熱水費 400万円

電気料金の高騰により、簡易水道施設で使用する電気料金を増額した。

【下水道会計】

○光熱水費 387万円

電気料金の高騰により、下水道施設で使用する電気料金を増額した。



飼料等の生産資材高騰により酪農をはじめ農業生産は危機的な状況

○物価高における農畜産物の適正な価格形成と農業経営の存続に向けた需給改善対策等の強化に関する請願・意見書

鹿追町農民団体連絡協議会(武藤敦則会長)からの請願を採択し、国に意見書を提出した。

ウクライナ情勢や円安等で燃料・肥料・飼料等が高騰する一方、農畜産物の取引・販売価格に反映されず、生産現場は危機的状況にある。

適正な価格形成可能な環境整備、乳製品の需給改善策及び無利子等の金融対策等を国へ要望する。

【一般会計補正予算(増減議員)】

役場庁舎エレベーターが設置された場合、乗者数等の規模及び施工時期は、

定員13人を想定しており、椅子も対応可能である。

施工時期は未定である。



エレベーター(イメージ)

電には影響しない。修理完了は令和5年3月を予定している。

町営牧場指定管理委託料について、夏季入牧の舎飼い頭数が計画の3万9千頭から4万頭も増加した理由は、令和5年度の方向性は、

夏季の舎飼いは、放牧より2倍以上の入牧料にもかかわらず希望が多く、可能な限り受け入れたため増加した。現在は生乳の生産調整等で飼養頭数が減少しており、令和5年度は令和4年度計画並みの頭数で計画している。

町営牧場の育成舎指定管理者のJA鹿追町が業務を行う



町営牧場の育成舎指定管理者のJA鹿追町が業務を行う

住民と議会を結ぶ まちなか会議

カフェでひびくと

11月22日、議員とカフェでひとことを国際交流センターで開催し、5人が参加した。



議員定数や議会改革等について意見交換が行われた

町政を問う。

令和4年12月13日、委員会代表質問で2委員会が、一般質問で4人の議員が登壇した。

※各議員の顔写真は事前撮影したものです。

代表質問 窓口対応 書かないワンストップ窓口によるサービス向上は継続して検討・改善を進める



総務文教常任委員会 畑久雄 委員長

(質問)

「書かないワンストップ窓口サービス」を実施している北見市役所を視察した。

窓口の表示が「課」ではなく、何の手続きができるのか表示されている。タッチパネル式の受付機があり、手続き内容のボタンを押すと順番に呼び出してくれる

(答弁) 喜井町長

一つの窓口で簡潔に済ませることができ「書かないワンストップ窓口」は、住民の利便性の向上、手続き漏れの防止、時間の短縮、職員の業務効率化につながる。

本町では役場本庁舎1階の町民課戸籍年金窓口係を総合案内窓口として

等、住民目線の窓口サービスを導入している。

本町の窓口サービスは、役場・町民ホール・トリムセンター・こども園・支所等で行われているが、各課の連携状況と課題は、

総合窓口業務には、ICT化された場合でも職員の幅広い知識と経験が不可欠だが、専門的な研修を受講し、関係課と業務の確認を行なっている。

また、手続き漏れ等の無いよう、マニュアルにより体系化する必要があると考える。

(質問)

家族で転入する場合、氏名・家族名・住所・下水道・学校の転入等の手続きをスムーズに行えるよう、書く回数や窓口を回る回数を減らす取り組みは、

(答弁) 喜井町長

転入手続きと合わせて保険証や乳幼児等医療費受給者証の発行、児童手当認定請求書の受付、学校の入校通知書の発行等を総合窓口で一度に行なっている。

住民異動届の複写を保険証発行の申請書として利用し、さらに乳幼児等医療費受給者証発行は、あらかじめ住所等が印字された申請書を用意する等、記載の手間を減らす工夫をしている。

また、上下水道手続きも、1階町民課の専用デスクで建設水道課職員が対応する等、可能な限りワンフロアー体制を整えており、来庁者が2階に行く負担を省いている。

(質問)

窓口業務の改善方法を職員が考え、検討や工夫をすることが職員の人材育成になると考えるが、

(答弁) 喜井町長

行政改革を推進するにあたり、職員によるICTプロジェクトチームが「窓口業務省力化」として検討し、令和4年度から具体的に研究を始めたところである。

関係職員が住民目線に立ち、サービス向上の取り組みが重要である。

転入・結婚・お悔やみ等のライフイベントに係る手続きを、職員自ら疑似体験し、新たな課題の発見につながるものと考えている。

(質問)

窓口業務は、瓜幕支所と役場本庁舎の窓口と連携が必要であり、電算・通信機器を連携している。また、窓口業務の打ち合わせ、研修を行い連携している。

(答弁) 平山町民課長

職場全体で、来庁者へ笑顔で受付対応しているか。

(質問)

業務以前に、人の気持ちに相手に伝わることを



役場庁舎の総合案内窓口窓口業務改善を検討

**(質問)** 令和3年3月議会で一般質問した、地域防災計画や総合防災ハザードブック改定、職員の防災訓練や避難所設営訓練実施の進捗よく状況は。

**(答弁)** 喜井町長 令和4年度は災害備蓄



山口 優子 議員

## 防災

### 防災の進捗よくと男女共同参画推進は意思決定の場に女性の参加を進めたい

**(質問)** 防災計画やマニュアル策定が遅れている理由は。防災担当職員は何人か。

**(答弁)** 平山町民課長 ごみ処理広域化の事務を優先し、業務量が増えることが理由である。

**(質問)** 男女のニーズの違いに配慮し、避難所運営や意思決定の場への女性参加、妊産婦・乳幼児等に配慮した感染対策、衛生環境確保、トイレ・更衣室の設置場所や照明・巡回等で安心安全へ配慮、心身の健康問題に対する相談体制づくり等を想定している。

**(答弁)** 喜井町長 防災における男女共同参画推進への取り組みは、

**(質問)** 庫の整備と備蓄品を充実する。避難所開設マニュアルは今年度内に完成するよう進めている。令和3年7月の水防法改正に伴い、総合防災ハザードブックの全面改定も行う。

**(答弁)** 喜井町長 職員の避難所設営訓練や招集訓練は必要であり、人手不足は関係部署と連携して進めるべきである。

**(質問)** 地域防災計画と実際の避難所配置では収容人数に10倍も違いがある。正確なものをホームページに掲載等、早急に対応してほしい。

**(答弁)** 喜井町長 男女共同参画で、女性の最大ニーズは「担当者は女性職員を」である。生理用品や下着の配布、性暴力被害の相談窓口等、あらかじめ責任者を女性にしておくべきである。保健師や保育士等が、意思決定の場や防災会議へ参加してもらうのは、

**(質問)** 防災担当職員は2人である。

**(答弁)** 喜井町長 当初は職員2人だったが、令和2年度から障がい者1人を雇用しており、現在は担当できる作業も増え、貴重な戦力となり、及び業務内容は。

**(質問)** 令和3年度から化学肥料での栽培に移行し、人件費を含む経費は約950万円、販売収入は約170万円であった。令和4年度は、化学肥料での栽培に移行したことで年々生産量が増加している。

**(答弁)** 喜井町長 開始当初は、水耕栽培ではあまり例のない有機栽培を進め、栽培管理指導等を受けていた。平成30年度の人件費及び委託料を含めた経費は1450万円、販売収入は約20万円であった。令和3年度から化学肥料での栽培に移行し、人件費を含む経費は約950万円、販売収入は約170万円であった。令和4年度は、化学肥料での栽培に移行したことで年々生産量が増加し

**(質問)** 新型コロナウイルスの影響等で交流人口が減少し、特に観光産業へ大きな影響を及ぼしている。本町でも観光客の増加対策で、交流・関係人口を地域づくりに生かす取り組みが求められている。

**(質問)** 新型コロナウイルスの影響等で交流人口が減少し、特に観光産業へ大きな影響を及ぼしている。本町でも観光客の増加対策で、交流・関係人口を地域づくりに生かす取り組みが求められている。



狩野 正雄 議員

## 交流人口

### 交流・関係人口増を地域づくりに生かしては民間の視点を生かし多角的に進める

**(質問)** 大阪から修学旅行で訪れた高校生が、ライディングパークで人間ばん馬を行なった。

**(答弁)** 喜井町長 また、本町の美しい景観や充実した施設、魅力的な町民で映画が撮影されている。

**(質問)** 足元にある資源や施設を見直し、体験や見学メニューを開発する、民間事業者のノウハウやアイデアを募集する考えは。

**(答弁)** 喜井町長 移動制限により、然別湖を中心とした観光産業に大きく影響しており、観光客を増加させる取り組みが課題である。生活様式の変化に対応できるよう、テレワークで仕事をしながら旅行を楽しむワーケーションや、ショートステイプログラム等の充実を図る。

**(質問)** 特に、観光振興や地域製品の開発・販路拡大を軸に首都圏企業と業務提案を進める。

**(答弁)** 喜井町長 民間の視点を生かす等、固定概念に捉われない多角的な視点で進める。



人間ばん馬 道外の修学旅行生に好評

**(質問)** ビジネスの視点で施設の活用や観光資源、農業生産等の紹介、見学方法を研究する考えは。

**(答弁)** 喜井町長 本町には多くの施設があり、観光と先進農業等を紹介する視察をパッケージ化し取り組みたい。

**(質問)** 瓜幕余剰熱利用ハウスは、瓜幕バイオガスパラントの余剰熱を利用する施設として建設し、平成30年度から作物を栽培している。

**(答弁)** 喜井町長 当初は菌根菌等の液肥



産業厚生常任委員会 加納 茂 委員長

## 代表質問

### 瓜幕バイオ 瓜幕余剰熱利用ハウスの活用方針は 農福連携の拠点として活用を目指す

**(質問)** 1日当たりの労働時間も増加している。業務内容は、主に栽培作物の種まき・栽培に係る施肥・防除と、作物の収穫・出荷作業である。休日もハウス内温度の状況等の管理作業を交代で実施している。

**(質問)** 平成30年度からの人件費を含む年度別の経費と、野菜等の売り上げ収入は。

**(答弁)** 喜井町長 開始当初は、水耕栽培ではあまり例のない有機栽培を進め、栽培管理指導等を受けていた。平成30年度の人件費及び委託料を含めた経費は1450万円、販売収入は約20万円であった。令和3年度から化学肥料での栽培に移行し、人件費を含む経費は約950万円、販売収入は約170万円であった。令和4年度は、化学肥料での栽培に移行したことで年々生産量が増加し

**(質問)** 施設の今後の運営方針は。

**(答弁)** 喜井町長 開始当初より栽培方法や栽培品目等を研究し、生産量向上による新たな産業・雇用の創出に努めてきたが、地域再生計画で策定した目標値には達成していない。今後は、再生可能エネルギー活用による脱炭素生産作物として差別化を図り、高付加価値の推進と、高収益作物の栽培研究を引き続き進めたい。また、NPO法人地域共同作業所もみじ工房が、就労継続支援B型事業所(就労B)としての指定申請を検討している。指定

**(質問)** 障がい者が安心して働いて報酬を得られる場として活用することは、非常に大事なことであり、障がい者が作業しやすい作物を選ぶのは、どんな作物でもよいと思う。

**(答弁)** 喜井町長 ただ、その中で今後水耕栽培ハウスの特異性と優位性を生かした作物にも着目してほしいが。

**(質問)** 冬季に余剰熱を使って作物栽培・出荷するのがもう一つの大きな目的であり、トマトや葉物野菜が出荷できる意味合いもあつたと思われる。

**(答弁)** 喜井町長 当初はこの水耕栽培ハウスを同様に増設する計

**(質問)** には支援に係る施設と設備が必要となることから、水耕栽培ハウスを就労B施設のの一つとして活用できないか、もみじ工房と協議を進めている。

**(答弁)** 喜井町長 このハウスを農福連携の拠点として活用できるよう進めたい。

**(質問)** 画であつたが、難しいと考える。

**(答弁)** 喜井町長 もみじ工房による就労Bについては、令和5年秋頃の開設を目指している。

**(質問)** 就労B施設の運営には、働く方々の報酬を確保するため、安定的な仕事が必要である。農福連携でも支援協力したい。

**(答弁)** 喜井町長 また、作業効率性と安全性も含め、障がい者が使いやすく、水耕栽培ハウスに改良が必要と考えている。

**(質問)** 冬季はトマト等を栽培

**(質問)** 冬季はトマト等を栽培

**(質問)** 冬季はトマト等を栽培

**(質問)** 冬季はトマト等を栽培

**(質問)** 冬季はトマト等を栽培



水耕栽培ハウス 冬季はトマト等を栽培



### 脱炭素社会

Q ゼロカーボンシティ宣言後の方向性は

A エリアごとに脱炭素を推進する



台蔵 征一 議員

【答弁】喜井町長  
道の駅しかおいは自営線ネットワークへ接続等で省エネ・再エネ化を図り、電気自動車の充電設備や水素燃料電池の設置等を検討する。

【質問】  
計画では、エネルギー供給エリアで3基目のバイオガスプラント整備とあるが、建設及び地域新電力会社設立の方向性は。

【答弁】喜井町長  
固定価格買取制度（FIT）の売電を計画中で、系統の空き具合で出力制御するノンファーム型接続となる。地域新電力会社の早期建設は難しい状況である。農業部門の脱炭素の推進は重要と考える。

【質問】  
令和4年4月に国から脱炭素先行地域の指定を受け、令和12年までの9年間、町内を4エリアに分けて事業が進められている。役場周辺エリアで道の駅しかおいの整備内容は。

【質問】  
脱炭素教育と自然体験留学センター改築の考え方は。



自然体験留学センター  
山村留学希望者の増で拡充要望が多い

【答弁】草野企画課長  
地域住民や瓜幕自然体験留学制度推進連絡協議会で構成するプロジェクトチームを発足し、令和5年早々に会議を開催し、令和8年頃からの計画・施工を目指す。  
瓜幕は脱炭素教育推進エリアとして重要であり、ワーケーション対応の施設も必要と考える。  
町民向けには、新たな電化製品やエネルギー創出設備に支援したい。



上嶋 和志 議員

### 次期町政

Q 喜井町政のあゆみは

A 課題解決に努力し引き続き挑戦したい

【質問】  
喜井町政の任期が残り4カ月余りとなった。認定こども園の整備や中鹿追農地再編等の大型事業が終わり、厳しい財政状況でのスタートとなったが、特に給食費の無償化等の子育て環境充実に努めてきた。

【答弁】喜井町長  
就任後を振り返ると、公約として掲げた項目は全般的に達成もしくは着手できたこと認識している。また、地方創生への新たな取り組みも着実に任期中で残りわずかとしたが、これまでの課題解決に全力を傾ける。



次期町長選へ立起表明を行う喜井 知己 町長 (R4.12.13)

【質問】  
本町にはまだまだ解決しなければならぬ課題があるが、来期に向けて町長として手腕を発揮し、継続する意志をうかがう。

【答弁】喜井町長  
町民皆さまから支持をいただけるのであれば、引き続き町政を担当したい。

## 先進地での事例を調査

### 総務文教常任委員会が道内視察を実施

総務文教常任委員会は、令和4年10月4日から6日に、道内の先進地を視察した。

大空高校東藻琴校  
緑友寮及び新寮

#### 【町の概要】

大空町は、平成18年3月に女満別町と東藻琴村が合併した町であり、人口6814人、世帯数3053世帯（令和4年9月末現在）、面積343・66平方キロメートルである。

#### 【調査結果】

大空高校の寄宿舎は築50年以上と老朽化しており、現在、校舎近くに令和5年4月の供用開始を目指し建設中である。施設概要は定員40人の居室として男女各8室と共有室を備える。建設費は約5億円を地方創生拠点整備交付金等を活用する。



建設中の大空高校新寮 (R4.10.4)

さらに、センターハウス棟を設置し、住民との交流・公設塾等を行う。  
大空町ではこの施設を交流拠点として位置付け、大空高校を核とした地域活性化、人材交流を通じた学びの場として活用予定である。

#### 【考察】

女満別と東藻琴地区にそれぞれ

それぞれ高校があり、学科の統合やメインキャンパス設置の決定等、多くの困難を乗り越え、大空高校を開校した。町民を中心として検討委員会等、時間をかけて町民の合意を得てきた。  
生徒募集は、全国公募とし、リモートによる学校説明会や大空高校でのオープンキャンパスでは、参加する生徒には旅費の助成も行なっている。  
また、瓜幕で行なっている山村留学のように、親子での移住者も入学している。  
1間口の高校であるがコールド入制とし、進路に合わせて文理探求系と農業や先端情報技術を学ぶスマートアグリ探求系の2系列を設定し、高校3年時では時間割の8割を自分で選択している。  
少子化が進む中、小規模高校にとつて特色を出し入学者を集

めるのは、課題が多く費用もかかってくる。  
町村の小規模校として鹿追高校と多くの共通点があり、全国公募、公設塾、寄宿舎、魅力ある学校運営は参考とすべき点が多々あった。



現在の緑友寮 築50年以上と老朽化 (R4.10.4)

書かないワンストップ  
窓口でサービス改善

#### 【市の概要】

北見市は、人口11万3453人、世帯数6万1911世帯（令和4年9月末現在）で、平成18年に端野町、常呂町、留辺蘂町の1市3町が合併して現在の北見市となった。面積1427平方キロメートル、東西110キ



北見市役所1階ロビーの受付機 来庁者は最初に目的の手続きを選択 (R4.10.5)

導入前、手続きに来た住民は、窓口を何度も回り、何種類もの書類に同じ住所や名前等を書かなければならず、とても時間がかかるというサービスの課題があった。

ロメートルと広大で、市役所本庁舎の他に3支所、5出張所の計9カ所の窓口がある。  
【調査結果】  
窓口サービスの向上と効率化を同時にかなえるため、改善に取り組んだ。

北見市役所は新築の庁舎で、窓口表示は、何の手続きができるか、という表記になっている。庁舎1階ロビーに受付機を備えており、来庁時、最初に手続きのボタンを押すと、順番に呼び出してくれる。



北見市役所の窓口 流れ図で説明し手続きを進め、転出入等の手続きが短時間で完了 (R4.10.5)

また、窓口の職員にとつても、ベテラン職員に確認しないと書類の漏れやミスが発生してしまう課題があった。

そこで、誰もがミスなく受付をすることができるよう、「窓口支援システム」を企業と共同で独自開発し、平成28年に導入した。

手続きのうち、住所変更等の簡単な手続きが全体の70〜80%を占める。これらをワンストップ化する。窓口業務を会計年度任用職員に任せることで、正職員は専門的な事務・相談や審査が必要な手続きに時間をかけられるようになった。実際に、家族で引越して



北見市役所 R3.1から供用開始 (R4.10.5)

来た場合の疑似体験をしたところ、職員の質問に答えるだけで、手続きチェックシートと住所や家族全員の氏名、生年月日等が記載された書類が印刷される。住民は署名するだけで、引越時に伴う転入手続きは5分ほどで終了した。

これら二つの取り組みは、鹿追町役場でもすぐにも取り組める内容であると考えている。重要なポイントとして、窓口業務改善の取り組みは住民サービスの向上とともに、職員の資質向上にもつながっているものと認識した。

空き家活用による移住・定住、まちづくり会社

【町の概要】

津別町は、人口4260人世帯数2211世帯(令和4年9月末現在)、面積716・80平方キロメートルである。森林面積が86%を占め、産業は林業と畑作が中心のまちである。

【調査結果】

空き家対策について、町内にある空き家のうち、一部に損壊が見られ小規模な修繕が必要なのは43・9%、管理に特段の問題がないものは21%あり、条件次第では利活用を考えたい等を希望する方へ空き家情報を提



空き家バンクで移住等の希望者を募集(北海道つべつまちづくり会社ホームページより)

供している。

補助事業として、空き家等撤去促進事業、空き家活用促進事業及び住宅改修奨励事業は助成金額が最大各50万円、中古住宅購入奨励金は最大30万円、起業等振興促進事業は最大1千万円である。

空き家等情報登録制度(空き家バンク)は平成30年にホームページを開設し、同年10月から本格始動している。

運営及び移住定住サポートデスクのワンストップ窓口は、北海道つべつまちづくり株式会社社に業務委託し実施している。登録後、マッチングと契約に向けた流れである。

注意事項として①売買・賃貸の交渉や契約について関与しない②物件登録者と利用希望者へのあっせんや仲介はしない③交渉や契約等に関する一切のトラブル等は当事者間で解決することを挙げられている。

物件売買交渉・登記変更・契約等は複雑で、専門家に依頼することを勧めている。社会環境が大きく変わっていく中でも、愛着のあるまちに長く住み続けたい町民の願いに応えるため、町では人と人とのつながりやその仕組みをデザインすることによって、コミュニティを元気にする取り組みを各分野で進めている。

【考察】 先の読めない時代、だからこそ想像力を働かせ、試行錯誤しながら少しずつ前に進んでいき、そうしたチャレンジが新しい時代を築いていく。関係する住民を応援していくのは行政の役割である。

人口減少対策、移住・定住政策、むらづくり会社

【村の概要】

鶴居村は釧路管内のほぼ中央に位置し、人口2489人世帯数1206世帯(令和4年9月末現在)、面積571・80平方キロメートルで、人とタンチョウが共生する、観光資源と自然が豊かな村である。

【調査結果】

人口は約2500人前後で推移し、減少率は低く、緩やかにながら世帯数が増加傾向にある。子育て支援・医療支援・雇用対策・移住定住対策等、むらづくりの基本施策が十分行われている。



鶴居村の新総合体育館「ファミスポ・アップ」株式会社むらづくり会社鶴居が管理運営を行う (R4.10.6)

子育て支援では出産祝金をはじめ、小学校入学時・高校進学に対しての支援や、雇用対策では廃校になった小学校をクラフトビル工場に活用する起業誘致、空き店舗ではコインランドリーを開業した酪農家等の事例もある。

移住定住対策では、新築・中古住宅取得に対し、さらにゼロカーボンシティを目指す村として、太陽光発電システム及び木質燃料ストーブ購入をセットで、村内外事業者を問わず全額を現金で補助し、支援している。

むらづくり会社については、第5期総合計画における①経済の持続的な発展②地域経済の循

環③地域を活性化させるサービスの充実等の課題解決のため、村が40%、村内企業が51%、残り個人住民の出資により設立され「ふるさと納税業務」、令和4年度完成の「総合体育館の管理運営」が業務委託されている。

今後は、イベントの運営支援、特産品の製造販売、EC(電子商取引)サイト運営業務、移住定住対策等の業務拡大を予定しているとのことである。

【考察】

鶴居村は、人口規模的には本町のほぼ半数程度であるが、主要産業の農業を中心にむらづくりが進められており、近年ではバイオマス事業に着目しゼロカーボンシティを目指している。また、過疎地域自立支援では本町と同様に名前の挙がった村として共通点が多い。

少子高齢化・地方分権により基礎自治体の果たす役割は増加している状況にあり、限られた職員で住民が満足できる行政サービスの限界がある。官民協働のまちづくりは、地域経済を循環させる役割が大きい。また、次世代に夢と希望が届くまちづくりの実現に向けて取

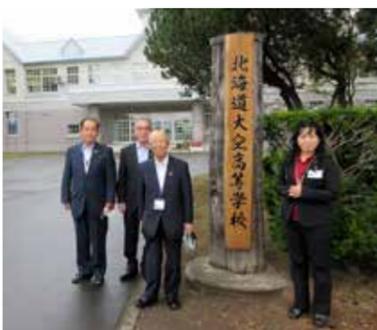
総合考察

り組むことが重要である。業務委託を先行することで、町内での雇用機会の創出や、街地の空洞化の解消、公共施設等の再利用により人流や地域の活性化にもつながるまちづくりの重要な課題である。

今回は道東に位置する1市2町1村の行政視察を行い、人口減少対策、学校教育、空き家対策、公共施設の取り組みや対策等を調査した。

大空町では町村合併と少子化により、高校の統合が4年がかりで進められ、地域住民の賛同で誕生した。全国公募や、校舎及び寄宿舎等の施設整備が進められている。地域学校協働活動を通じてまちづくりを行なっている。生徒数の減少や全国公募、寮や公設塾等、鹿追高校も同様の課題がある。

北見市での書かないワンストップ窓口業務では、地方自治体の多くが業務の効率化に悩んでいるかを認識した。平成24年から取り組みを開始し、課長以



大空高校にて (R4.10.4)

上のワンストップ推進会議や担当職員による作業部会では、時間をかけて事前のトラブルを回避し、導入の成功につながった。本町においても、費用がかかる窓口業務システム構築の前に、まず申請書の統合や手続きの流れを書いたシートの導入については、住民サービス向上のために取り組めると考える。

津別町、鶴居村の空き家対策、移住定住対策、まちづくり会社等、各町村で特徴ある資源を生かし、試行錯誤しながら前に進んでいる。そうした人たちを応援していくのは行政の役割であり、新たなことに挑戦できる場を広げることがまちの成長力である。

みんなで知恵を出し、住みよ

「おしゃべりな写真館」の映画が2月でロケ終了。令和5年秋には映画化されます。役場と道の駅でPRビデオが見られます。



鹿追消防団  
ささき かずお  
団長 佐々木 和男 さん



祝 鹿追消防団創設100年記念式典  
式典で消防功労者を表彰



鹿追消防団

100年記念式典

「自分たちのまちは、自分たちで守る」  
これまで一世紀にわたり受け継がれてきた精神を未来に伝承し、郷土の安全と安心を守るため、全団員一丸で持続的かつ発展し続ける消防団を目指します。

(取材・インタビューー 川染洋)

令和4年11月20日、鹿追消防団創設100年記念式典が町民ホールで行われました。鹿追消防団は、大正12年に私設組織「火災予防組合」として創設されたのが始まりで、過酷な災害活動や戦時下で改変等の困難を乗り越え、100年の歴史を積み重ねて来ました。  
式典では、先人達への敬意と感謝を表するとともに、消防功績者、火災予防等の貢献団体へ鹿追町長から感謝状が贈呈され、後援会活動に貢献された方へ消防団長から感謝状が贈呈されました。



01農業塾生  
さとろ りょう  
佐藤 凌 さん



傍聴した01農業塾生と産業研修生

産業研修生と01農業塾生が

ゼロイチ

議会を傍聴

町長と各議員が、多彩な分野において議論を行い、鹿追町を良い町にしていきたいという気持ちが伝わってきました。  
防災、ゼロカーボン等の取り組みも成功できれば良いと思います。

(取材・インタビューー 台蔵征一)

令和4年12月13日に定例議会一般質問が行われ、産業研修生5人と01農業塾生4人が傍聴しました。  
産業研修生は、道内外から酪農の実習生として来町しており、01農業塾生の若手農業者とともに全体研修の一環として議会を傍聴し、まちづくりを考えていきたいとのことでした。  
議会傍聴は初めてということもあり緊張した様子でしたが、とても勉強になったと笑顔で感想を述べていました。

編集後記

「同姓か別姓か、選択できる自由を」 選択的夫婦別姓制度をご存じですか？  
現在は結婚した夫婦の96%が夫の名字を名乗っています。選択的夫婦別姓とは、同じ姓を希望する場合は同じ姓を、別々の姓を希望する場合は別々の姓を名乗ることもできる制度です。同姓夫婦と別姓夫婦で、夫婦間や子供に対する責任・権利や義務に違いはありません。「選択的夫婦別姓制度の法制化（に向けた議論）を国に求める意見書」が、十勝管内19市町村中16市町村で採択されました。鹿追町議会でも議論しましたが、採択されていません。  
女性の働き方や生き方に関わる問題です。皆さんはどう考えますか？

議会広報部会 部会員 山口 優子

議会広報広聴常任委員会  
広報部会

- 部会長 台蔵 征一
- 副部長 清水 浩徳
- 部会員 安藤 幹夫
- 川染 洋
- 山口 優子